

 いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

秋の七草に思う

万葉集に収められている「秋の七草」と呼ばれる種類の花は、すべて観賞用で同じ時期に咲くのではなく、秋の深まりと共にそれぞれが花開きます。秋と言えばハギかキキョウが身近に思いつく草花です。秋の七草の覚え方のコツが、小冊子に掲載されていました。音感を頼りに5.7.5.7.7のリズムが覚えやすいようです。ハギ・キキョウ・クズ・フジバカマ・オミナエシ・オバナ・ナデシコ。庭の片すみや道端などで見かけるフジバカマ、何処のお家の庭にも植栽されているナデシコは愛らしい宿根草で親しまれています。ハギは公園などで大株になり迫力がありますが、家庭の庭では持て余し気味になります。キキョウなどは蕾が風船のようになりパカッと割れる様も面白い花です。それぞれの名前を呼びながら花の姿を思い出して日本の草花に親しみましょう。(たかはし)

今月の便り

良い畑のパロメーターはキノコ

昔の人たちが、畑の中に良い微生物がいるかどうかのパロメーターにキノコを使っていたと言われていました。キノコの菌を撒きキノコが出る畑は良い畑と言い伝えられてきました。現代のように、農薬や化成肥料ばかりを使っている畑にキノコは生えてこないでしょう。なぜなら、キノコは微生物の集合体で、農薬は微生物を殺してしまうからです。微生物のいない畑は固く水はけが悪く保水性のない畑となり、作物に適さない畑と言えるでしょう。農薬や化成肥料は言わば薬です。薬漬けになった人間の体はどうなるでしょうか。畑も同じことが言えます。薬は使いようによっては健康に役立ちます。でも、薬の使い過ぎは危険ですね。土中の微生物を増やすのに飲み残しのヨーグルト(加熱殺菌していない生菌タイプ)を、水で薄めて畑にまくだけで、ヨーグルトに含まれる糖類、乳酸菌類とその代謝物などにより、土壌微生物が増加します。土壌環境が改善されて、連作障害の出にくい畑作りが可能になります。薄め方はアバウトで大丈夫です。(ながやす)



外で越冬できない植物の鉢植え

コロナも終息しないまま2年目。猛暑や局所的な豪雨などの自然災害。苦難の多い年もようやく秋になりました。冬も目の前です。この季節は急に寒くなることもあるので天気予報をこまめにチェックして、外に出していた耐寒性の弱い鉢植えは冷え込む夜に霜にあてないように。それからすぐに暖かい室内に移動させるのは禁物です。耐えられるギリギリまで寒さに当ててから、まずは明るくて涼しい室内へ。植物がびっくりしないように徐々に慣らしてあげてください。水やりも冬場は夏のようにたくさん水を吸い上げるわけではないので様子を見ながらあげる必要があります。また寒さに当たることで花芽がつくものや、段ボールなどを被せて日照時間を調整すると花芽がつくものなど、非耐寒性の鉢植えの特性はさまざまです。自宅の植物の特性を調べて理解しながら育ててください。クンシラン、シャコバサボテン、カランコエ、ランの種類などはよく相談があります。花を上手く咲かせる為には鉢を移動させるこの季節の管理が大事です。(きのした)

ホトトギス

夏から秋にかけて咲くホトトギス(杜鵑草)はユリ科ホトトギス属の多年草で、日本をはじめ、東アジア(台湾・朝鮮半島)インドにかけて20種ほどが分布しています。日本には、13種あり、そのうち北海道には3種が自生しているようです。南西部にホトトギス、ヤマジノホトトギスがあり上川の天人峡に黄花のハゴロモホトトギスがあります。ホトトギスの名前の由来は、花卉に赤紫色の点を散りばめたような特徴的な模様が入り、これが野鳥のホトトギス(杜鵑)の胸の模様と似ていることからつけられました。葉に油を垂らした様な染みのような斑点が入るものがあり、その様子から油点草(ユテンソウ)という別名もあります。基本的には育てやすい宿根草なので、鉢植えや寄せ植え、花壇、シェードガーデンなど色々な用途で活躍しますが花色が豊富な南方系のホトトギスは北海道では冬の凍結で傷みやすいので、腐葉土などで保護する等の対策が必要となります。春先は日が当たり、夏場は半日陰~日陰になるような場所を好みますので、落葉樹の下などに植えるのがおすすめです。(いとう)

おもしろい根の植物(1)

植物が地中に根を張ることにたとえ、様々な考え方や行いを定着させることを「根ざす」と表現しますが、地上より高いところに根を張る植物もあります。色彩館内には南国で見られるガジュマルがあります。幹の途中から気根という根を伸ばし、やがて地面に達して広がります。屋外の林縁などには半日陰を好むツルアジサイがあります。地面を這っている時はコンパクトなのですがひとたび他の木に根を吸着させたとき、大きな葉を繁茂させて伸びて行きます。また、ヤドリギは実を野鳥の食料として提供し、ナラ類、ヤチダモなどに種を付着させて発芽。根を食い込ませながら、自らも光合成を行う半寄生の常緑樹もあります。このように身近には様々な不定根をだす植物があります。(かわはら)

大豆の不思議

身近だけれどあまり知られていない大豆の正体を解き明かします。大豆は、タンパク質や脂肪が豊かな豆で、別名「畑の肉」とも言われます。この大豆、畑の土にも栄養がないと育たないと思い込み、肥料を沢山与える方が多いのですが、肥料を与えると茎や葉が大きくなり実が付きません。この状態を「ツルボケ」と言います。実は、他の野菜と違って大豆は、痩せた土地でなければちゃんと育たないのです。痩せた土地(肥料分の少ない土地)に植えた大豆は、丈は短く葉は少ないが、豆は沢山なります。豊かな土地で育つ大豆は実が付かず、やせた土地に育つ大豆は、実が多いって不思議ですね。そのメカニズムは、大豆の根にあります。大豆の根には白く丸い「根粒」という粒がついていて、その中に「根粒菌」と言うバクテリアが沢山います。普通、植物は成長に不可欠な窒素を空気中から直接吸収できないので、土の中に溶け込んでいる微量の窒素分を根っこから吸収しています。ところが大豆の場合は、根についた根粒菌が空気中の窒素を吸収しアンモニアに変えてダイズに渡しているんです。一方、ダイズは光合成で得た糖分を根粒菌に渡しています。この大豆と根粒菌が助け合っている関係を「共生」と言います。しかしこの根粒菌、豊かな土地では他のバクテリアに負けてしまいつきにくくなるので、大豆は根粒菌のつきやすいやせた土地でなければ育ちません。普通の大豆に比べて「黒大豆」の根には根粒菌が少ないのです。根粒菌が少ないということは、土の中に含まれている窒素分が多く土地が豊かであるということ。実は黒大豆は、普通の大豆と違いタンパク質が実に蓄えられないため、十分に土から栄養を補給する必要があり、豊かな土壌でしか育たないのです。また黒大豆は、生育期間が大豆よりもひと月くらい長いので、その分糖分が多く蓄えられると考えられています。

ちょっと
いっぷく

ひとつき ひとバラ



文：曾根 浩太
(いわみざわ公園バラ園)



第八十六回

シュラブローズ

スノー バレー

Snow Ballet

作出国：ニュージーランド

作出者：W. Clayworth

作出年：1977年

ハーディネスゾーン：Z6

繰り返し咲き

交配：Sea Foam × Iceberg

秋バラの時期になってまいりました。色が濃くなり、香りに深みも増す秋バラは花を楽しむにはとても良い時期です。花以外にも、ヒップや木々の紅葉も楽しめるようになるこの時期、少し肌寒くなりお部屋でのんびりするのもいいですが、冬へと移り行く景色を眺めに散策するのも楽しいと思います。

今回ご紹介するバラは当園では珍しいニュージーランド作出のバラ、「スノーバレー」です。グランドカバーに使用されているバラで、高さは低めの60cm程度、幅は150cm程度まで枝を伸ばします。花壇からあふれ出るように伸びている枝を見るといいなあ…と感嘆してしまいます。

花は名前の通り白か少しだけピンクが入った白になります。小輪のポンポン咲きでとてもかわいらしく咲く花です。葉っぱは照葉の濃い緑色。秋になると黒葉するのが特徴です。黒葉は他のバラにはあまり見られない特徴で、特別感のある黒い葉っぱに白い花が映えて素敵な雰囲気を出してくれます。

剪定する際には焼き鳥串くらいの太さで芽があるところで切っていきます。細枝でもいっぱい花をつけるのでほとんど手間がかからないバラです。

交雑を見ていくと、シーフォームとアイスバーグの子どもということになるほど納得という感じですね。種子親のシーフォームは、スノーバレーとほぼ同様の樹形、花形ですが花色がスノーバレーよりは少しピンクが入った色になります。また、樹勢がスノーバレーよりも強いバラです。挿し木にしてもシーフォームのほうがスノーバレーよりも着きやすく、大きく育ちやすい気がします。ただ、同じ場所に植えると花が咲くまでほぼ見分けがつかないといっているほど似たバラになります。当園では混植しているのですが、最初は混植に気が付かないほどでした。花粉親のアイスバーグは言わずと知れた白花の名花。殿堂入りのバラとしても有名で世界中で愛されているバラです。

シーフォームも十分に白いバラなのですが、秋は特に薄っすらピンクが入っているのがわかります。作出者はそれに満足できずにアイスバーグと掛け合わせて、より白い花のスノーバレーを作ったのでしょうか。どちらの親も黒葉する品種ではないので黒葉を狙って出してはいない気がしますがどうだったのでしょうか。交雑から作出者の気持ちを読んでもみるのも中々面白いですね。

今月の市民園芸講座のご案内



●10月2日(土)・9日(土) 13:00~15:00

バラ管理スタッフのローズツアー・秋

料金：無料 定員：18名 講師：バラ園スタッフ

●10月10日(日) 13:00~15:00 早春を彩る球根を植えよう

料金：材料代 2,000円～ 定員：10名

講師：高橋 かつえさん フラワーマスター

●10月16日(土) 13:00~15:00 ミニ盆栽を仕立てよう

料金：材料代 2,000円 定員：18名 講師：君島 信博さん 草つ月

●10月23日(土) 10:00~12:00 ばらゼミ® バラの越冬。

料金：無料 定員：18名 講師：工藤 敏博さん ローズグローワー

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<http://www.iwamizawa-park.com/>

※材料費のかかる講座は、講師の方の準備等の都合上、開催日3～4日前までにお申込みをお願いいたします。

新型コロナウイルス感染防止策として、以下の点についてご了承ください。

× マスクの着用がない方

× 37.0℃以上の熱がある方

上記に該当する方は受講をご遠慮いただいております。

- ・定員制限を設けているため、定員に達してしまいお申込みを受け付けられないことが頻繁にあります。連絡なしの欠席はお申込みをされたい方のご迷惑となりますので、ご遠慮ください。
- ・事前申し込み無しに当日に飛び入り参加される方は、定員制限などの関係から受講をお断りさせていただく場合がございます。
- ・密集を避けるため、各講座の定員につきましては、予告なく変更する場合がございます。
- ・換気の為、2方向の窓・扉を開放いたします。暖かい格好でお越しください。
- ・密接を避けるため、講座中の私語は謹んでいただきますようお願いいたします。